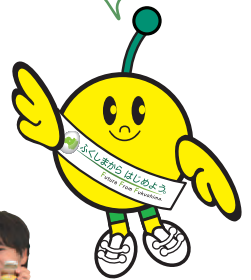


学び、創造し、 未来を拓こう!

頑張っているみんなの声を紹介するよ!



震災から3年半を過ぎた今、子どもたちは復興への想いを胸に秘め、それぞれが思い描く夢に向かって挑戦しようとしています。県では、子どもたちが自ら考え創造する力を身につけられるようサポートしています。今回は、ふくしまの未来を切り拓いていこうと、一步踏み出した子どもたちの姿を紹介します。



新しい学校で
チャレンジしたい!



いわき梨を
全国にPR!



誰もが楽しめる
美術館に!



復興の力に
なりたいたい!



尾瀬の自然を
体感!



人の役に立つ
ロボットを!

震災以降、本県の子どもたちから「社会や人の役に立ちたい」という声が多く聞かれるようになりました。

自らの目標や将来をしっかり見つめ、歩みを進める子どもたちが増えていることを、とても頼もしく感じます。

こうした子どもたちを見守り、支え、応援することは、復興を推進していく上で極めて重要であり、県ではさまざまな取り組みを行っております。

福島で学んだ子どもたちが、その可能性を大きく広げ、自らの手で未来を切り拓いていくことを心から願っております。



未来へ向けて進む
子どもたちへ

福島県知事 佐藤 雄平

知事メッセージ



多機能防災探査型ロボットを開発 震災の経験生かして世界一!

郡山北工業高校コンピュータ部5人のチームは、電子部品を使ったシステムなどのアイデアを競う世界大会(※)で優勝しました。震災の経験を生かして作られた「PRO ROBO (プロロボ)」は、一台でさまざまな防災に対応できる、多機能探査型ロボットです。「人の役に立つモノを作りたい」という思いで毎日積み重ねてきた努力が、世界に認められました。

※第5回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト

機械科、情報技術科
といった別々の科の
メンバーが協力して
作り上げたんだって。
チームワークの
力はすごいね♪



夕方になると、決まって生徒たちから「先生、9時まで部屋を開けてください!」と言われます。作業がやめられないほど熱中している生徒たちの姿を見ると、うれしくなります。

コンピュータ部顧問

ふかざわ たけし
深澤 剛さん(写真右)



チームメイトを
気づかう優しい
リーダー

英語が得意!
飛び入り参加の
1年生



優勝した瞬間は、思わず声をあげました。約8カ月間、自分たちで全部作り上げ、何度もテストしました。「すべてできた!」という時の喜びは、今までに感じたことのないものでした。これから実際に、プロロボが実用化されて各家庭に導入されればと思います。将来は、防災・減災に対する意識の高いまちづくりに、少しでも携わっていきたいです。

すずき ともよし
機械科 3年 鈴木 智弥さん(写真左)

私は人見知りで、最初は意見もうまく言えなかったのですが、世界大会では英語を聞き取って先輩に伝え、発言することができました。来年も大会に参加し、チームみんなでロボットを作り上げる楽しさや達成感を味わいたと思います。将来は、原子力発電所内で活躍するロボットや、高齢者を補助するような実用的なロボットを作り、人の役に立ちたいです。

わたなべ ゆみ
情報技術科 1年 渡邊 友海さん(写真右)



地域の活性化に協力したいと思い参加しました。他の高校の人と話すことで、自分だけでは考えつかない発想や深い考えが持てたのがよかったです。

今の福島の一歩に合わせ、室内で遊べる施設を作ったり、室外遊び場を除草したりして、親も安心できる環境を整えていきたいです。

おがた ともき
修明高校 2年 尾形 智樹さん(写真左)



最初から最後まで自分たちで考えて実行できる貴重な機会だと思い参加しました。風評被害を払拭するために、県外にPRをして、「今これぐらい進んでいるよ」と伝え、恩返ししたいです。特産品を作ったり、他県の人と交流する機会を設けたりして、福島をアピールしていけたらと思います。

やべ
光南高校 3年 矢部 くるみさん(写真右)

県復興・再生に主体的に関わり、自立心や社会参加意欲を高めるため、地域ごとに高校生が集まり、グループワークを行っています。今年度は、県内7地域14校の高校生が、「自分・家族・地域のために、いま自分たちがやりたいこと」について話し合い、実践しています。



ふくしまからはじめよう。 若者ふるさと再生支援事業 地元への想いをかたちに!

昨年は観光・復興マップを作ったりしたんだって。





10月からの県立美術館常設展 高校生らしさ 全開の展覧会を!

福島県立美術館では、高校生が「キュレーター(学芸員)」となって、展覧会を企画・開催しています。老若男女、誰もが楽しめる展覧会を目指して、25人の高校生が自ら学び話し合いながら展覧会を創り上げてきました。ぜひ会場で、高校生の若い感性に触れてみてください。



「高校生キュレーターによる 小さなコレクション展」

開催期間 10月1日(水)~12月27日(土)

場所 県立美術館常設展示室

12ページをご覧ください。

「展覧会で何を伝えたいのか」を何度も話し合う中で、自分の意見を持つことが難しいけれども大切だと感じています。高校生らしさ全開で、美術館のイメージをくつがえすような展覧会を創りたいです。

将来の夢はモノをデザインすることです。「どうしたらお客さんを感動させることができるのか」を追求する今回の経験は、夢につながる第一歩だと思って取り組んでいます!



橘高校 2年
田中 なつみさん
(写真右)



若者による情報発信事業 「いいね!ふくしま」 いわき梨を全国へ!

磐城農業高校食品流通科の生徒たちが、規格外のいわき梨を使って、「磐城農業高校の梨48シリーズ」(ドレッシング、焼肉たれ、ジャム)を開発しました。風評被害を払拭しようと、全国への販売も進めています。

梨焼肉たれを使ったメニューも開発!

「いわきてんこもり丼」
いわき市特産のネギ、豚肉、梨焼肉たれを使用。



大人から子どもまで食べられる梨の商品を開発しました。一度に200キロの梨の皮むきを10種類の試作品を作りますが、それを何度も試し食べ続ける中で、一番おいしい梨の配合割合が48%だと分かりました。さらにおいしくなるよう、現在も試作を続けています。

今後はミデッテ(*)などで販売し、いわき梨を全国にPRしたいです。食を通して笑顔届けられたらと思います。

*県の首都圏情報発信拠点
「日本橋ふくしま館MIDETTE」

食品流通科 3年 琴田 巴菜さん



校名選定に協力してくれた檜葉中学校3年生の皆さんに、ふたば未来学園高等学校に入ったなら、何をしてみたいか聞いてみました。

進学を目指す系列に入り、他系列の福祉関連科目も勉強しながら大学に進学し、将来は多くの高齢者を助けたいです。

牛渡 愛実さん(写真左)

職業人を目指す系列で資格をとって、人の役に立てる仕事に就きたいです。

河原 明日香さん(写真中央)

アスリートを目指す系列に入ってスポーツを頑張り、将来はスポーツトレーナーの資格を取って、お年寄りが体を動かすのを手伝いたいです。

小葉 龍さん(写真右)

来年4月に広野町に開校予定の「ふたば未来学園高等学校」は、進学・アスリート・職業人を目指す3系列を設ける中高一貫校です。生徒自身の興味・関心を大切に、主体的な学びができるようサポートします。さまざまなことにチャレンジしたい人、物事を深く追求したい人を待っています!



ふたば未来学園高等学校(広野町) 将来に向けた、それぞれの学びを!



尾瀬子どもサミット 自然の仕組みを じっくり観察!



7月29日から8月1日までの4日間、福島、群馬、新潟3県の小・中学生が尾瀬沼周辺に集い、友情の輪を広げるとともに、尾瀬の自然やその自然を保護するためのさまざまな取り組みを学びました。

尾瀬の自然を守る浄化施設など、普段入れないところにも入れてもらい、実際に見て学びました。学校に行ったら、人間が守り続けてきた尾瀬では、動物と植物がうまく共生していることなどを話そうと思います。将来は、自然を守ることに関わりたいです。

坂下中学校 1年 江川 綱弘さん

